

経済・金融 フラッシュ

3月マネー統計： 銀行貸出は約4年半ぶりの前年比マイナス2%台

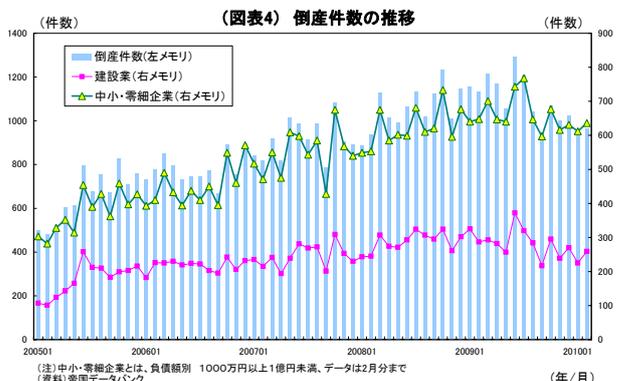
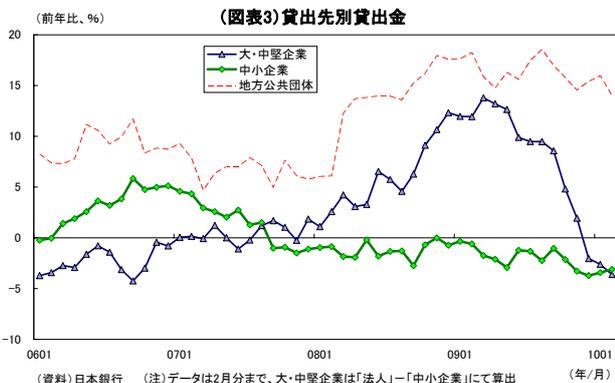
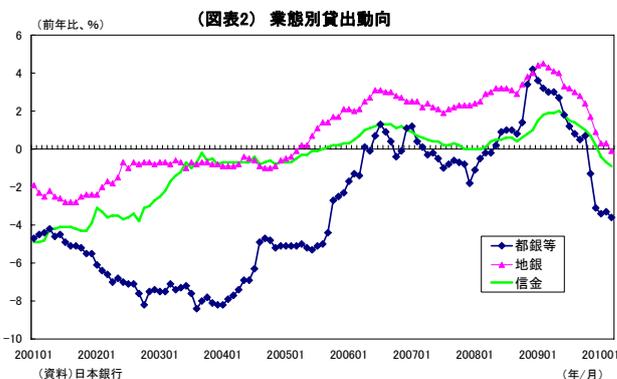
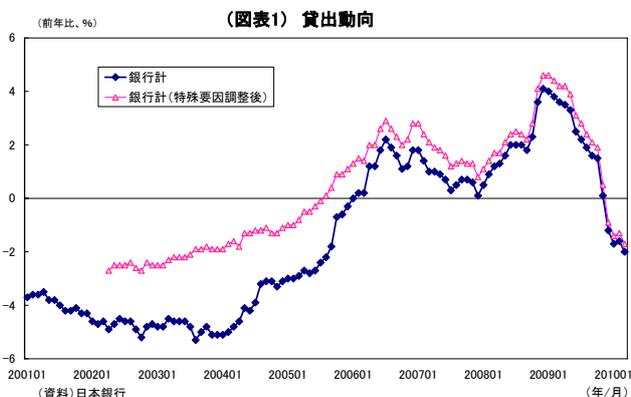
経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

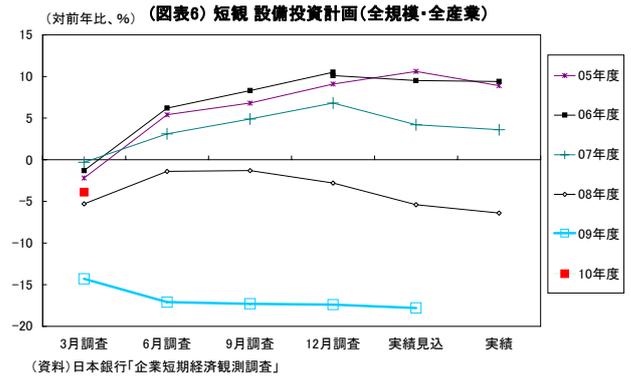
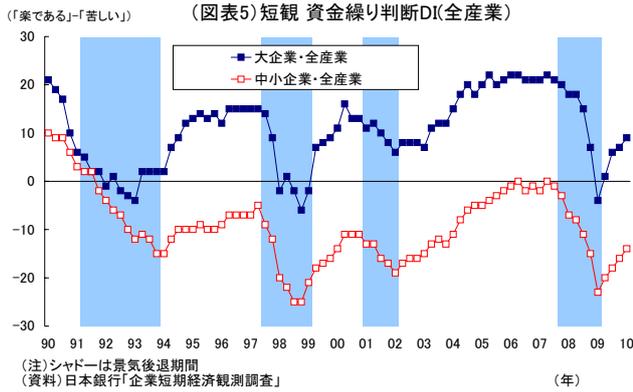
1. 貸出動向：設備投資動向が今後のカギ

日銀が発表した貸出・資金吸収動向等によると、3月の銀行総貸出(平残)の前年同月比伸び率は▲2.0%と前月(▲1.6%)からマイナス幅が拡大した。マイナス2%台は2005年8月以来となる。

比較対象である09年3月はリーマン・ショック後の金融市場の混乱に伴う貸出急増のピークにあたり、その反動という面もあるが、資金需要の低迷も続いているようだ。短観の2010年度設備投資計画は前年度比▲3.9%と下げ止まり感が出ているが、今後企業の投資姿勢が積極化するかどうか銀行貸出を左右するポイントになる。

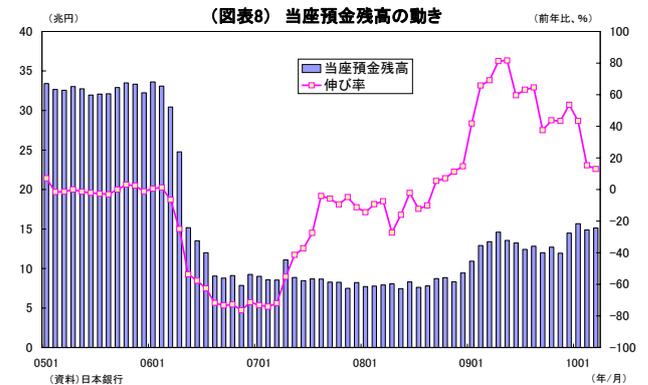
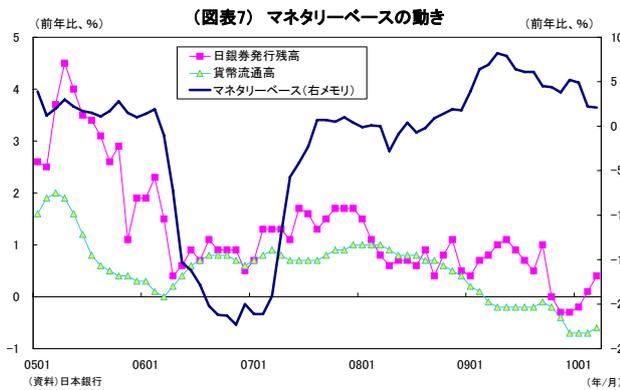
なお、中小企業向け貸出は引き続き前年比▲3%台で推移している。短観の資金繰り判断D.I.も中小企業では依然水準が低く、倒産も過去のトレンドからは高止まりしている(図表1~6)。中小企業向けの政策サポートの効果が今後出てくるのか注目される(図表1~6)。





2. マネタリーベース：追加緩和を背景に高い水準をキープ

日銀による資金供給量を示す3月のマネタリーベースは、前年同月比2.1%増と19ヶ月連続の前年比プラスとなった。前月の伸び率(2.2%)からはほぼ横ばいである。日銀は12月に導入した新型オペの資金供給枠を3月17日に10兆円から20兆円程度へと拡大、金融緩和姿勢を強めている。日銀の積極緩和への期待は高く、緩和姿勢は今後も当面維持されるとみられることから、マネタリーベース残高は引き続き高水準で推移していくとみられる(図表7,8)。

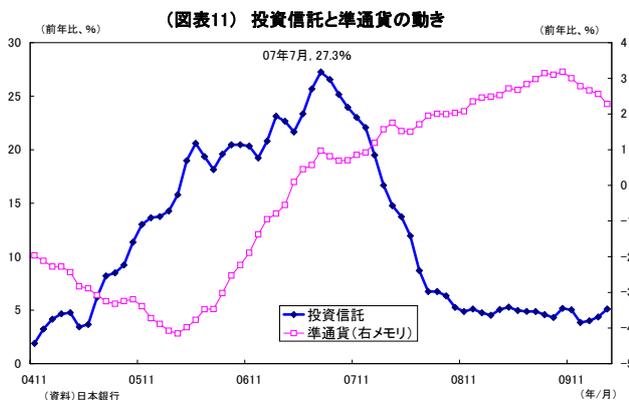
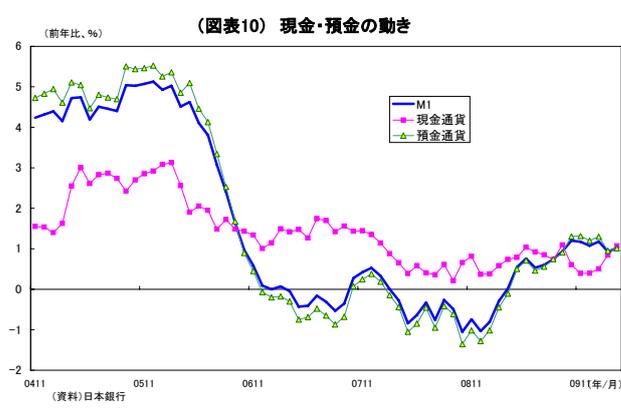
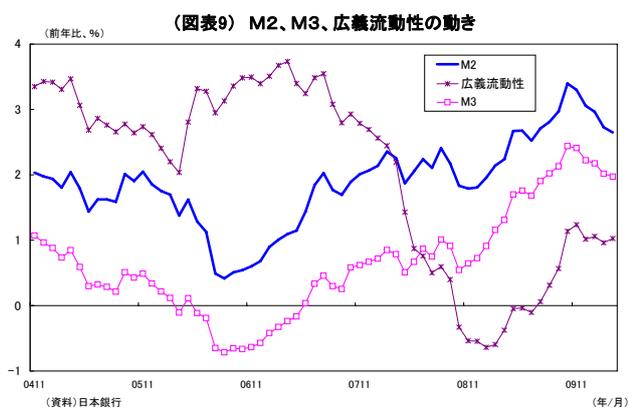


3. マネーストック：通貨供給量の伸びは緩やかに低下しつつも、引き続き高水準

通貨供給量の代表的指標である2月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年同月比2.6%増（前月は2.7%増）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.0%増（前月は2.0%増）と、伸び率はやや鈍化傾向にあるものの、依然高い水準にある。

M3に投信や外債などを含めた広義流動性は前年比1.0%増（前月改定値も1.0%増）となり、広義流動性の伸びがM3の伸びを下回る状況が続いている（図表9～10）。

定期預金など準通貨の伸びはここ数ヶ月やや鈍化してきているが、投資信託などリスク性資産への流入が大きく加速している様子は見られず、マネーの流れは引き続き安全性重視の色彩が強い（図表11）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。